

児童扶養手当・特別児童扶養手当の現況届の提出を忘れずに

児童扶養手当・特別児童扶養手当を受給している方(支給停止中の方を含む)に、現況届の案内通知を送付しました。

現況届は、引き続き手当を受給する資格があるかを確認するために提出するものです。期限までに提出がないと手当が受けられなくなり、通知が届かない方は、お問い合わせください。

▽受付期間

●児童扶養手当：8月31日(火)まで(土曜・日曜日、祝日を除く)
●特別児童扶養手当：8月12日(木)～8月31日(火)(土曜・日曜日を除く)

▽受付時間 午前8時30分～正午、午後1時～5時15分

▽受付場所 子ども政策課、五日市出張所市民総合窓口係
※子ども政策課のみ8月4日・25日の水曜日 午後8時～25日の水曜日 午前8時～30日、8月28日(土) 午前8時～30日

市議会の

新しい議長・副議長が決まりました

7月12日に開催された、あきる野市議会第2回定例会開会会議で、議長・副議長が選出されました。

- 議長：中嶋博幸
- 副議長：増崎俊宏



中嶋博幸議長

増崎俊宏副議長

分く正午、午後1時～5時15分も受け付けます。
※特別児童扶養手当は郵送でも受け付けます。

▽対象 児童扶養手当・特別児童扶養手当受給者(支給停止中の方を含む)

▽持ち物 現況届の案内通知に記載されているもの

▽問合せ 子ども政策課子ども政策係

児童手当・児童育成手当の現況届の提出を忘れずに

児童手当・児童育成手当を受給している方は、現況届を提出する必要があります。提出がないと手当が受けられなくなり、既に対象者の方に送付している現況届に必要事項を記入の上、同封の返信用封筒を使い郵送で提出してください。現況届を紛失された方はお問い合わせください。

▽窓口で申請する場合

●受付時間：午前8時30分～正

また、各委員会で委員長が決まりました。

- 総務委員長：窪島成一
- 環境建設委員長：中村一広
- 福祉文教委員長：中村のりひと
- 議会運営委員長：村野栄一

監査委員に子籠敏人氏

議会選出の監査委員の任期満了に伴い、新しい監査委員が決まりました。

増崎俊宏氏の後任として、子籠敏人氏が7月12日付けで監査委員に選任されました。任期は、令和3年7月12日から令和7年6月30日までです。

「特定健康診査」 「後期高齢者医療健康診査」を実施します



対象の方には、7月下旬に受診券と利用の手引きなどを送付しています。お手元に届いていない場合はお問い合わせください。

▽対象

●特定健康診査：あきる野市国民健康保険に加入している40歳以上74歳以下の方(昭和57年3月31日以前生まれで、健診日現在74歳以下の方)

●後期高齢者医療健康診査：後期高齢者医療制度に加入している方

▽健診期間 8月1日(日)～11月30日(火)

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況などで、期間を変更する場合があります。

▽費用 無料

▽問合せ 健康課健康づくり係 (直通558・1183)

特集 チェアスキーヤー 森井大輝さんへインタビュー

市内在住のチェアスキーヤー森井大輝さんへ、現在の活動や障がい者スポーツの普及状況などの話を伺いました。



森井大輝 (トヨタ自動車株式会社所属) 1980年あきる野市生まれ。高校生のときに事故で脊髄を損傷し、車椅子の生活となる。長野パラリンピックをきっかけにチェアスキーを始める。トリノパラリンピック銀メダル獲得、バンクーバーパラリンピック銀、銅メダル獲得、ソチパラリンピック銀メダル獲得、平昌パラリンピック銀メダル獲得、IPCアルペンスキーワールドカップ年間総合優勝3回 あきる野市民栄誉賞受賞者。あきる野ふるさと大使。

「チェアスキーを始めたきっかけ

1997年にオートバイの事故で歩けなくなりました。将来の夢も希望もすてなくなっていました。その時、入院していた病院のテレビで見た長野パラリンピックのアルペンスキーランピックのアルペンスキーに釘付けになりました。出場している選手が、ゴールエリアでコーチや選手同士で抱き合った。ハイタッチをしたり、奥歯が見えるくらい笑顔に衝撃をおぼえました。当時、夢を失っていた未来が見えず、笑うことすらできなくなっていた自分にとつて、同じ障がいを持っている人が、笑っている姿を見た時に、スポーツをはじめれば、心の底から笑えるのではないかと、もう一度、夢と希望を取り戻せるのではないかと思ひ、障がい者スポーツの世界へ飛び込みました。

「現在、世界のトップチェアスキーヤーとして活躍されていますが、苦労されたことは

初めて出場した、ソルトレイクパラリンピックでは成績を残すことが出来ませんでした。その時感じたのが、海外の選手との体力の差でした。当時、フィジカルトレーニングはほとんど取り入れてなく、身体も細く体力もありませんでした。海外の選手の鍛え上げられた身体との比較は、まるで大人と子どものようでした。これでは勝てないと感じ、帰国後、本格的にトレーニングを開始しました。体力が上がるにつれ技術力も向上し、成績が残せるようになりました。今では、トレーニングは好きですが、始めた当時は苦しくてとても辛い思い出があります。それから、遠征費などは、事故の時の保険金や両親に頼り、なんとか活動していました。

「思い出に残る大会は

初めてメダルを獲得したトリノパラリンピックです。パラリンピック前の国際大会でも、3位以内に入ることもあったのですが、パラリンピックでメダルが取れるという自信はなかった中での、初めてのメダル獲得だったので、思い出に残っています。

「コロナ禍での環境の変化は

体調管理に、より気を使うようになりました。脊髄損傷の影響で、発熱しやすい体質でもあるので、熱が出ないようにするための体調管理を徹底しました。また、コロナにうつらないうつさないようにトレーニングをするために、自宅にジムを作り、これを機に抑えられながらもトレーニングは続けられるようになりました。それから、昨年は、コロナの影響などを考慮し海外遠征には行きませんでした。海外の難しいコースを滑ることができなかつたり、海外のトップ選手とのタイム差や技術を確認できなかったのが不安があります。頭を切り替えて、エンジニアの方々とチェアスキーの調整に時間をかけることにしました。それから合宿などで県をまたいだ移動をするときは、毎回、移動する72時間以内にPCR検査を実施して陰性であることを確認することが習慣化しています。

「障がい者スポーツの普及状況

チェアスキーを始めた時は、障がい者スポーツへの関心も低く感じ、メディアでも取り上げられることは少なかったです。今では、私のようにスポーツ選手として企業が支えてくれたり、パラリンピック選手がコマーシャルに採用されたり、メディアでの露出度も上り、障がい者スポーツにも注目が集まっていると実感しています。障がい者の方がスポーツを経験する機会も増えていきますね。以前、障がい者と健常者が共に競い合うレクリエーション大会に参加した。障がい者スポーツの普及はこれからさらに進むと思っています。ぜひ多くの方に、スポーツの楽しさを体験していただきたいです。

「将来を夢見る子どもたちへメッセージを

新しいことをはじめたり、何かを変えることは、失敗する怖さもありません。より良いものが生まれてくる可能性を信じ前に進んで欲しいです。また、たとえ失敗しても、そのことがさらに自分自身を成長させ、夢に繋がる一歩となるので、チャレンジする気持ちをもち続けて欲しいです。

「今後の大会や目標は

来年の3月には北京パラリンピックが予定されています。市民の方と共に、コロナ禍を乗り越え、悲願の金メダル獲得に向けて、トレーニングに励んでいきたいです。



撮影：薬師洋行